

当富士紀行も遂に100の大台に乗った。よくぞ続いたものだ。駄文・雑文を飽きもせず、愛読して頂いた読者諸氏に感謝すると共に小生の意を受けて情報収集に任じてくれた庶務幹部等に改めて感謝する。

さて、富士学校の広報活動の主役と言え、富士学校音楽隊であろう。音楽隊は、音楽隊長以下30名で編成され、うち女性隊員は4名、平均年齢34.3歳という比較的若い部隊である。楽器別には、クラリネット×4、サクソ×5、ホルン×3、トランペット×3、トロンボーン×3、ユーフォニウム×2、チューバ×2、パーカッション×3、フルート、オーボエ、ファゴットは何れも一名という構成になっている。

願わくば、オーケストラのとしてのフルメンバーを編成しうる40名程度の隊員と何れの楽器も2名以上の奏者が欲しいものだ。

音楽隊の年間平均部外演奏支援回数は過去5年間平均で約40回という多さである。それぞれの演奏支援に当たっては、1週間ぐらい前から企画・選曲作業を開始する。事前合奏訓練は、2日～3日前から始めるのが理想的だとのことであるが、音楽隊員であろうと一般隊員と同じく行政管理支援や各種の作業を命ぜられることも多く、全隊員が揃っての合奏訓練は極めて困難であり、いきおい、パートの欠けたままの合奏訓練にならざるを得ず、森上隊長としてもまた個人としても、ある意味では練習不足によるかなりの不安を感じつつの演奏支援だそう。

しかしながら、その不安を全く感じさせないだけの演奏を披露するのだから彼等の実力たるや抜きんでているのだろう。流石にプロだ。

彼等の活動地域は御殿場・裾野の両市、地元小山町の2市1町に止まらない。遠くは、山梨の小淵沢町や甲府市、神奈川の横浜市、県内では浜松市まで演奏支援に赴くこともある。40%は2市1町以外である。

(参考までに、部内外別では70%が部外演奏支援である。正に部外広報の主役である。)

恒例となっている演奏支援を見てみよう。須走春祭り(5月)、小山町音楽祭(6月)、須走・御殿場の夏祭り(8月)、9月には、須走や須山市の体育祭、静岡地方追悼式(10月、因みに今年は10月13日)、1月には小山町の成人式で演奏する。その他、静岡音楽祭や防衛協会の祝賀式等の演奏支援も恒例になっている。一年中休み無しだ。音楽隊員の平均代休保有日数は約6日である。

仕事柄、土、日の勤務とならざるを得ず、家族サービスがままならないのが昔と変わらぬ音楽隊員の悩みである。若い隊員になるほど、現代っ子なのだろうし、それが当然なのだが、仕事も家庭も大切にしたいという意識が強い。しかしながら、現実には子供の運動会等にすらまともに行っていない隊員が殆どであるということも紛れもない事実である。本当に頭が下がる。もう一つの悩みが、月々数千円に及ぶリード等の消耗品の購入、百数十万円する楽器のローンの返済、レッスン料や楽譜代等々、確かに仕事に対する投資だとは云え、大きな負担であることは疑いを入れない。また、授業時間中に訓練が出来ない隊員は授業時間外に自らの意志で訓練する。それが彼等の常識である。

これ程までに苦勞して、彼等は何故、音楽を続けるのか？何が彼等を突き動かしているのだろうか。地道な練習を積み重ね、自らの奏でた音でその曲への思いが聴衆に伝わり、万雷の拍手を浴びた時、全ての苦勞を忘れ、音楽を続けて良かったと心から思う。聴衆の感動はまた己の感動でもある。

彼等は自らの演奏技術を持って、中学生や高校生に対する技術指導をボランティアとして行っている。嘗ては、沼津第一中学校、御殿場高校、御殿場西高校、御殿場西中学校の生徒達の指導を行っていたが、現在では、富士岡中学校、裾野東中学校の指導を行っているとのことだ。異色なところでは、消防や県警の音楽隊の指導も行ったことがあるという。

音楽隊員は各部隊等から隊歌の作曲を依頼されることも多い。最近では、開発実験団歌、東部方面後方支援隊歌等、作曲約60曲、編曲になると約150曲の実績を有している。

このような彼等の切なる願いの一つは、安定的練習時間・場所の確保であり、そういう意味において和楽館多目的ホールの優先的使用には感謝している。もう一つの願いは楽器、消耗品、演奏服等を補給・整備・更新して欲しいという事である。本来公費を持って支弁すべきところを個人等の負担に依存せざるを得ないのだ。実は富士学校音楽隊は、嫡出子ではないのだ。なるが故に公費を持って支弁すべき部分を他に依存せざるを得ないのである。勿論、可能な限りの支援はしており、関係者が苦勞しているのは理解しているが・・・。彼らに惜しみなき拍手と支援をお願いしたい。正式編制化が待たれる。